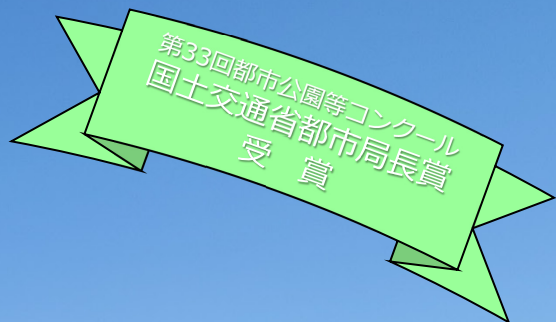


# 市民参画により自由な広場・遊び場が 生み出された「朝霞の森」



朝霞市・朝霞の森運営委員会・NPO法人あさかプレーパークの会

## 背景

基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」は、市の中心部に残された基地跡地（国有地の留保地）の一部（約3ha）について、2012年8月に市が国と管理委託契約を締結し、利用方針等の検討を行い、広場の利用や管理に必要な水道、駐車場、フェンス等の最低限の施設整備を行った上で、2012年11月4日に供用を迎えました。

## 供用前の段階から市民参画で方針を検討

市は、この広場で市民の望む利用が実現するように、供用前の検討段階から市民参画を呼びかけ、2012年9月に市、市民及び有識者のアドバイザーからなる「基地跡地暫定利用広場管理運営準備会議」（以下「準備会議」）を設立しました。

供用前に2回開催し、禁止事項が極力少なく、自由に利用できる広場とすることを理念とした「広場の憲章」が定められ、利用ルールも憲章の大方針に基づき、あらかじめ規制をかけるのではなく、利用状況を見ながら必要に応じて規制を考えればよいとの意見にまとめられ、原則として禁止事項を定めない方針となりました。

ただし、火気やバットの使用については、安全管理に対して最終的な責任を負う市が、火気の使用や利用競合による重大事故の危険性について説明し、市民は安全管理の必要性和管理者としての市の立場を理解し、競合による事故やトラブルを防止するためにゾーンを設定しました。

このように、市民が供用前から広場の活用の方針や利用ルールの検討に参加し、市と市民の合意の下で利用者の責任を明確化したことにより、多くの公園で禁止されているボール遊びや火の使用等が認められ、自由な広場が生み出されました。

## 供用後も市民が主体的に運営管理に取り組み「自由さ」を維持

供用後は、利用者の要望やトラブルへの対応、利用者の安全確保や利便向上等の管理運営の取組について、2013年10月までは準備会議において、それ以降は準備会議の後継組織である「朝霞の森運営会議」（年2回程度開催）や市民、利用団体代表者等（現在12名）で構成される「朝霞の森運営委員会」（毎月開催）において、市民等が主体的に参画して意見交換を行い、必要に応じて利用ルールの見直し等の対応を行っています。

利用ルールの変更のほとんどが、より利用しやすくするための対応であり、供用後間もなく5年が過ぎようとしていますが、広場の憲章の精神が今なお受け継がれ、できるだけ規制は設けずに自由な利用を守っていくとともに、「使いながらつくる つくりながら考える」というモットーのとおり、より良い空間になるよう育てていくという意識が貫かれています。

また、「朝霞の森」の自由な空間は本市の子どもたちにとって大変貴重な遊び場となっており、毎月開催されているプレーパークは、プレーリーダーや地域のボランティアの方々の指導のもと、のびのびと遊ぶことができるように運営され、好評を博しています。

公園等名：基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」  
（都市公園以外の公共団体が管理する広場）  
所在地：埼玉県朝霞市大字膝折地内  
面積：約3ha



朝霞の森周辺の空中写真（2013年8月撮影）



朝霞の森 平面図

### 朝霞の森 憲章

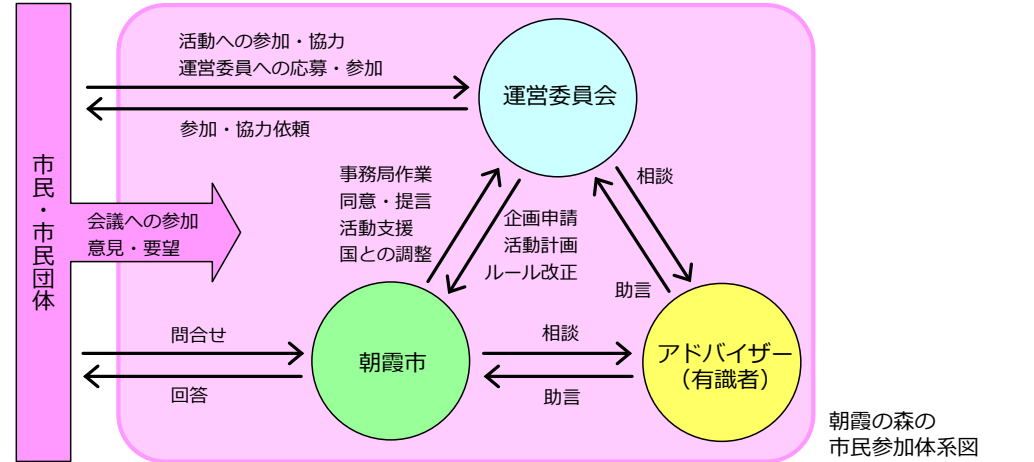
ここはみんなの広場です。

- みんなが楽しく、自分の責任で自由に楽しめよう
- みんなが協力して、みんなが守り育てる広場にしましょう
- みんなで朝霞スタイルの広場をつくりましょう

### 広場のルール

（2017年10月現在）

- ・周りの様子を見て他人に迷惑・危害を及ぼす行為はやめましょう
- ・危険を感じる行為を見た場合はお互いに注意をしましょう
- ・バッドは決められたエリア内で使いましょ
- ・ゴルフクラブは使用できません
- ・火を使用する場合は、市役所に事前に申請が必要です。決められたエリア内で使用してください
- ・町内会などの団体が、広場を占有して使用する場合は、市役所に事前に申請が必要です
- ・ペットを連れて入る場合は、リードを付けましょう



朝霞の森の市民参加体系図



朝霞市キャラクター ほぼたん



日常の利用風景（2016年10月撮影）



秋まつり【落ち葉プール】（2016年11月撮影）



プレーパーク（2017年10月撮影）



プレーパーク（2013年11月撮影）

謝辞：取組の当初から深く関わり、ご指導いただいている「朝霞の森アドバイザー」の卯月盛夫氏（早稲田大）、戸田芳樹氏（東京農大/㈱戸田芳樹風景計画）、奥村玄氏（神奈川大/㈱GENプランニング）、大橋尚美氏（㈱戸田芳樹風景計画）、また取組の初期にご協力いただいたランドブレイン㈱の当時の担当者の方々に、厚く御礼申し上げます。

（2017年10月作成）